

朝市の店舗配置

宋 静雯

1. 輪島朝市の模様

「朝市」は、朝市通り約 360 メートルを使用し、沿道で商売を営む「本町商店街」と共存するという日本でも珍しい特殊な道路の活用形態となっている。毎月 10 日、25 日、及び正月 3 ケ日朝市はお休みになっていることを除いて、午前 8 時ごろから朝市の出店がたくさんできて賑やかになっている。とれたての魚介類や名産の蒸しアワビや干物から、野菜・果物・民芸品などが並び、「買うてくдаあー」の呼び声が活気ある市を盛り上げている。野菜、果物などは周辺農家のおばちゃん、活きのいい魚貝・海草は漁師町の女衆が売りに出る。輪島を訪れた主婦に聞くと、「朝市で活きのいい魚、艶のある野菜、気軽に買える輪島の朝市が何よりも羨ましい」と言う（輪島市観光ホームページより）。



写真1 朝市通り



写真2 朝市で出店する女性



写真3 朝市で販売している海産物

2. 朝市の紹介

7 月にフィールドワークを行った時に、以下のことを調査してもらった。朝市では、店舗の外に露天の店がある。主に野菜、果物、魚というような日常生活の食べ物である。朝市で売られる野菜に「値札」はあまり付いていないということを発見した。値段は交渉しだい、買い手も売り手もこれを楽しんでいたそうである。

近年、観光客が多くなっているなので、手作りの民芸品を扱う店などの観光客向けの店もたくさんある。例えばお菓子の「中浦屋」は、輪島銘菓「丸柚餅子」を昔ながらの製法でひとつひとつ丹念に手作りしている明治 43 年創業の老舗（しにせ）である（中浦屋ホームページより）。最近インターネット販売や料亭でデザートとしての販売もあるそうである。



写真4 柚餅子総本家の中浦屋

輪島塗は輪島の名産物として出店数も多く、漆器は値段が高いため、お箸のような値段は安くて大勢が受け入れやすいものが一番多い。朝市を訪ねる観光客はほとんどが一、二膳のお箸を買っていく。お土産でも自分で使用してもいいかもしれない。朝市に合わせ、本町商店街の店舗は午前中だけ営業する店が多い。

以下の図表が示しているように、野菜、魚は日常生活の必需品として、朝市での出店店舗の中で数は一番多い。次は朝市の観光地化によって漆器、民芸品、土産品も大きな比率を占めている。海鮮物は主にアワビなどであるが、値段は高いため、販売量はあまり多くないようである。

この表に示しているように、朝市の出店数が近年は減少の傾向がある。具体的な状況は朝市グループの村上友望が「朝市観光地化」という研究で示しているの、ここでは割愛する。最後に、朝市の周辺設備として、朝市

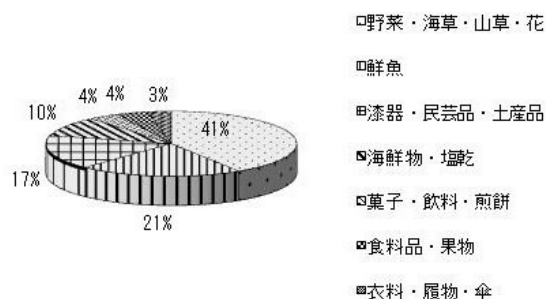


図 朝市出店種類の割合

輪島市朝市組合「輪島朝市本通り 虎の巻」より作成

表 平成8年と平成18年 朝市の出店数の比較

析木(2006)より作成

販売名目	H8.7.1現在	H18.10.1現在	H8.7.1との比較
野菜	138店	126店	減少12店
野菜・海藻混合	19店	15店	減少4店
鮮魚類	72店	68店	減少4店
海産加工物類	38店	48店	増加10店
民芸品・土産品類	50店	34店	減少16店
菓子・せんべい類	12店	9店	減少3店
果物類	8店	3店	減少5店
漆器・塗器類	10店	15店	増加5店
生花類	8店	3店	減少5店
薬草・酒類・飲食・履物・衣類・その他	29店	24店	減少5店
総計	400店	341店	減少59店、増加5店

を訪れる観光客を乗せたバスが停車する駐車場が輪島朝市から約100メートルで、朝市から近いという利点もある。また朝市組合は朝市通りの中心部に位置している。朝市案内を行っている一方、出店、道路の使用状況、苦情などの管理のしやすさもある。これは朝市が更に活躍していくために、有利な客観的な条件を提供していると思う。

3. 朝市と本町商店街

かつて商店街の道路はでこぼこで「バンソウコウ通り」と呼ばれるほどだったが、市に依頼したところ1年で修復してくれた。輪島市で一番の観光地になるそうである。

10年前までは朝市の人たちの商店街の店の場所取りが行われていた。朝市早く午前5時前頃から来て場所取りをしなければいけなかったという話と、「お店と朝市がずっと知り合い」という話を聞き取った。特に朝市の出店者は親子続けてという人が多い。知らない人がいきなりきても商店街の店の人は軒先を貸しづらい。お互いに良い関係を維持して、何代も同じ位置にあるそうである。信用がある販売者は母親時代からのお客さんもいると言われた。これは販売者における良い関係を維持して、安心して販売でき、購買者にとっては容易によく知っている販売者を探すことができると思う。



写真5 朝市同様に新鮮な海産物や農産物
(2007年7月10日)

朝市がやっていない時間に商店街は人気がない。朝市がないと商店街はやっていけない。商店街と朝市は「共存共栄」という関係だと言えると思っている。

4. 地物市

朝市は、毎月10日と25日は休業日となっており、休業日の街中は閑散としていることが多かった。そこで平成14年より朝市の休業日に、朝市通り続きの「わいち商店街・賑わいの道」約180メートルの区間で、「能登圏輪島地物市」という能登の地物にこだわった市が開催されている（平成15年9月からは輪島工房長屋周辺へ移動、平成16年1月からは土曜、日曜、祝祭日も試験的に開催）。

地物市の開店時間は、10日、25日は午前8時から12時まで、土曜、日曜、祝祭日は午前10時から15時まで、地物市の模様の販売店を中心に毎回約20店舗強が出店し、街に賑わいを提供している。輪島の新しい魅力の一つとして今後の動向が注目される（田口学 2004年「能登地域の観光振興に向けて」）。

7月にフィールドワークを行った時に、地物市は地震によってあまり人気がなかったが、魚や果物の出店はあった。これから、地物市は朝市、夕市と商店街と組み合わせて、

輪島の活気の復元に役を立つことができると信じている。

参考資料

朝市組合事務所 2007.『輪島朝市本町通り虎の巻』（未刊行）

上畠茂雄 2007. 周遊できるまちづくりと伝統的な朝市—輪島市・輪島の朝市。（財）都市づくりパブリックゼザインセンター編著『公共空間の活用と賑わいのまちづくり』学芸出版社

田口 学 能登地域の観光振興に向けて. 日本政策投資銀行 <http://www.dbj.go.jp/hokuriku/report/0524h.html>（最終閲覧日：2008年3月9日）

栃木一男 2006.『輪島朝市の歴史とその変化について』（未刊行）

柚餅子総本家中浦屋

<http://www.ycn.am/04tempo/index.html>（最終閲覧日：2008年3月9日）

輪島市観光課 朝市 <http://www.city.wajima.jp/yuraukaine/asaiti.html>（最終閲覧日：2008年3月9日）

そん・じんうえん

お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科ジェンダー社会科学専攻地理環境学コース